

学校名 やまがたけんやまがたしりつだいがしやうがっこう  
山形県山形市立第五小学校

校長名 みつもり さとし  
三森 聡

所在地 〒990-0034 やまがたけんやまがたしひがしはらまち  
山形県山形市東原町一丁目1番9号

TEL: 023-622-0655

FAX: 023-633-9331

E-mail: school@dai5-e.yimgt.ed.jp

## 1 研究主題

楽しみ、挑み、磨き合う子どもの育成  
～体育を通して子どもの主体的な学びを育てる～

## 2 研究期間

平成6年度～平成27年度 21年間

## 3 研究の目的

本校は平成6年度から体育を柱に研究に取り組んできた。主体的な学び方や運動感覚・技能の系統性、学び合いなど、子どもの実態から目指す子どもの姿を具体的にとらえ研究を進めてきた。研究する視点は、その時々で違っているが、いずれにしても、「運動大好き、友達大好き、勉強大好き」という本校の教育目標の具現化を図ろうとするものである。教科体育の深化と充実、教科外体育の工夫と改善、そして、健康教育へも研究の幅を広げながら、更なる教育目標の具現化をめざしていく。

## 4 研究の方法・実践内容

(1) 本研究の実践にあたり、「楽しみ」「挑み」「磨き合う」子どもの姿を次のようにとらえた。

「楽しみ」とは

「動くこと自体の楽しみ」「心身についてわかる楽しみ」「仲間と集う楽しみ」等、学びの過程で感じられる豊かな「楽しみ」である。これらを各単元で十分に味わわせ、自ら進んで運動に取り組もうとする子どもの姿を求めていく。

「挑み」とは

子どもたちは「できた・できない」「勝った・負けた」という結果のみに意識がいきがちである。そこで、自分の心身がどう変わりどう高まったか、その過程に意味を持たせ、より質の高いねらいに向かって努力していく姿を求めていく。

「磨き合う」とは

温かい雰囲気の中で、互いの違いを受け入れつつ、認め合う関係性をつくること大切である。心と身体を一体としてとらえ、言葉による交流を通して仲間よさを受け入れ、お互いに高め合う姿を求めていく。

(2) 子どもの主体的な学びを育て、上記の子どもの姿にせまるために、次の3つの点に力をいれて取り組んだ。

### 【体育授業の改善】

次の「授業づくりの3つの柱」を取り入れた学習を行い、体育授業の改善を進める。

①子どもの意欲を引き出す工夫

- 1)教材・教具や場の工夫
- 2)みんなで運動やルールを考える活動の設定
- 3)できそうだと見通しをもたせる工夫
- 4)運動や活動の意味を理解させる手立て

②確かな技能を身に付けさせる工夫

- 1)継続した基礎感覚づくり
- 2)ねらいと活動の焦点化
- 3)資料や見本の提示の工夫
- 4)学習カードによる活動のまとめ

③学び合いを成立させる工夫

- 1)子どもの意識に沿った課題提示
- 2)「分かることの大切さ」の理解
- 3)気付きをつなぐ話し合い
- 4)必要感のある交流や振り返りの設定

### 【健康教育の推進・生活習慣の改善】

生活リズムの見直しや保健学習などを通して、基本的な生活習慣の定着を図りながら、「気力」「体力」「学力」の向上を推進していく。

①生活リズムアンケートの実施

②生活リズム週間の設定

③保健学習の推進

### 【教科外体育の推進・運動の日常化】

運動の日常化と体力の増進を図るための活動を設定し、さまざまな運動に触れる機会を増やしていく。

①自分の記録に挑む「チャレンジタイム」

- 1)スポーツテスト
- 2)短距離走
- 3)持久走
- 4)フリースロー
- 5)縄跳び

②スポーツ委員会によるイベントの開催

- 1)ドッジボール大会
- 2)大縄跳び大会

③縦割り班による「なかよしタイム」

#### ④雨天時や冬季の遊び場の開放

1)おひさまホール1の開放

#### ⑤運動環境の整備

1)常にラインが引いてあるグラウンド

2)常に鉄棒運動ができる中庭芝生と体育館への鉄棒設置

3)自由に使える「放課後ボール」

(3) 大学生の支援による表現運動に取り組んだ。

#### 【大学生から伝統的な花笠の指導】

安久戸流。寺内流の習得。

#### 【オリジナル花笠の創作・学習発表会】

花笠リーダーを中心にオリジナル花笠の創作

### 5 研究の成果

- (1) 体育の授業改善に取り組むことで、子どもが主体的に学ぶための条件が整理された。特に、「学び合い」を授業に位置づけたことで、子どもの願いや課題に沿った授業を行うことができた。
- (2) 教師の願いを実現するための単元構成を工夫し、「課題の焦点化」を意図することで、子どもの意欲や技能の向上を図ることができた。
- (3) 指導案に単元で身に付けたい力を明記したことで、ねらいや評価方法が明らかになり、個々に対する支援を工夫した授業ができるようになった。
- (4) 事後研究会において、授業者と対話者で話し合いを焦点化したり、板書によって話し合いの経過をまとめたりすることで、より具体的な子どもの姿をもとに、教師の手立てや支援について話し合うことができた。
- (5) 生活習慣を見直すことや保健の学習を通して、自分の身体に対する気付きや健康への意識を持たせることができた。
- (6) 大学生の支援による活動は「身近なお兄さん、お姉さんが熱い思いをもって山形の伝統文化「花笠」を伝承している姿に触れたことが、子ども達の主体性を引き出した。さらに、自分たちのオリジナル花笠を創るプロセスを位置付けることで、仲間と協力して自分たちの思いを実現していく学びの楽しさを感じさせることができた。

### 6 研究の独自性

平成6年から平成10年度までの体育科の研究は、「主体的に学習する子どもの育成」をめざし、個に応じた適切なめあてのもとせ方、技能の向上につながる順序性のある場の工夫、課題解決のための学び合い・励まし合いの活動等について研究を進め成果を上げた。

平成11年度から平成13年度までの3年間、「楽しみ、鍛え、磨き合う子どもの育成」のテーマのもと、山形市教育委員会の委嘱を受け、運動の日常化をめざし研究を推し進め、その成果を県内外の先生方に発表した。以後、平成24年までの11年間、上記のテーマのもとで、運動技能や運動感覚とその系統性に視点を当てたり、かかわり合いを通した運動技能の獲得に視点を当てたり、評価方法に視点を当てたりと、その時々の子どもの実態や課題に応じ、さまざまな視点からアプローチしてきた。

また、平成24年度からは、再び山形市教育委員会の委嘱を受けるとともに、平成25年度からは「楽しみ、挑み、磨き合う子どもの育成」とテーマを若干改めた。体育を通して子どもの主体的な学びをどう育てていくかを研究するとともに、健康教育（保健学習等を含む）からのアプローチも加え、運動だけでなく子どもたちの心と体、生活習慣等にまで範囲を広げ、研究を進めてきた。平成26年度には、公開研究発表会を通し、これまでの3年間の研究成果を県内外の先生方に発表した。今年度（H27）も、平成26年度までの研究の成果と課題を受け、特に「学び合い」という視点から、より豊かな体育・健康教育を目指し、継続して研究を積み重ねている。

加えて、県の子どもの体力向上支援事業の重点指定校として、山形大学などと連携することで、子どもたちの体力の向上を図ると共に、効果的な指導法についても研鑽を積んでいる。

### 7 研究の発展性

本校がこれまで推し進めてきた、体育学習の中核である子どもたちに「確かな技能や運動感覚」を身に付けさせていくための効果的な手立てについては、引き続き探っていきたいと考えている。また、技能や運動感覚を獲得する過程で、子どもたちは、学習に対する姿勢がより主体的になったり、仲間と学び合うよさを感じたりしていくものであると考える。これは、まさに子どもたちが生涯に渡って学び続ける基盤になり得るものであり、体育は、その基盤を身に付けさせていく価値ある教科であるにとらえている。

従って、この体育の研究で子どもたちが獲得したことは、体育という教科のみならず、それをとび越え、他教科の学習や日常生活へと豊かに広がっていくものと考えている。